

令和6年度 差別をなくし人権を尊ぶ彦根市青年集会 総括

令和7年(2025年)3月2日(日)、ひこね市文化プラザ メッセホールにて、「差別をなくし人権を尊ぶ彦根市青年集会」を開催しました。

この集会は、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくし、人権が尊ばれる明るい地域社会を築くために、青年が一堂に会し、差別の現実から深く学び、自分の中に潜んでいる差別性に気づくとともに、人の痛みや喜びを共有し合える人間関係をつくることを目的に開催しているもので、今年で34回目を迎えました。

今年の集会のテーマは「気づき・・・うわさを信じちゃった自分」。当日は学校関係者を中心に75名の参加がありました。

はじめに実行委員から「今まで当たり前で疑問に感じなかったことが、ふとした出来事がきっかけでハッと気付いた経験」、「自分の差別心や偏見に気付いた経験」などの話題が提供されました。その後、同じように気づいた経験の有無やその内容、「気づいた時、どのような行動を取るか?」、「気づいていても言える相手と言えない相手がいるのはなぜなのか?その線引きはどこなのか?」ということについてグループ討議を行いました。

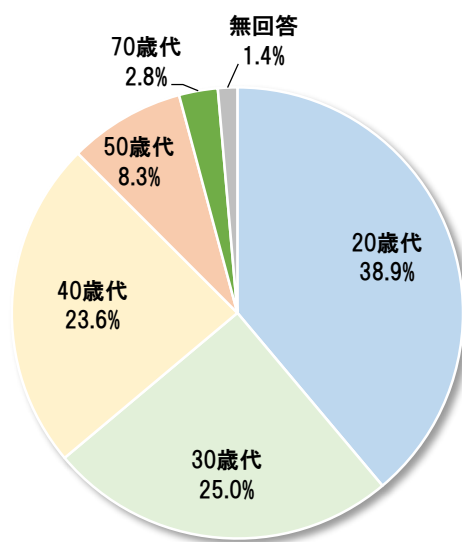
参加者の方々からいただいたアンケートの結果は、次のとおりです。

(アンケート回収率 72/75人=96%)

あなたの年代を教えてください

1. あなたの年代を教えてください

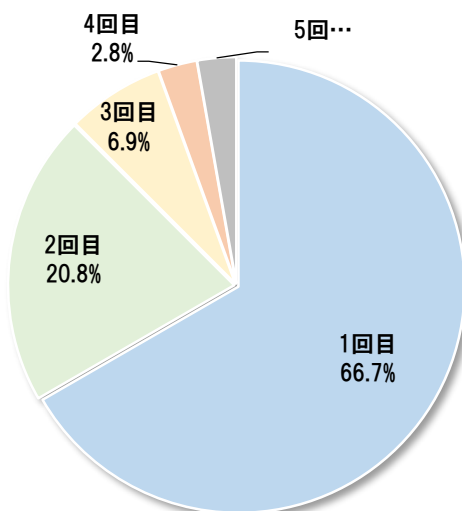
	人数(人)	割合(%)
19歳以下	0	0.0
20歳代	28	38.9
30歳代	18	25.0
40歳代	17	23.6
50歳代	6	8.3
60歳代	0	0.0
70歳代	2	2.8
80歳以上	0	0.0
無回答	1	1.4
合 計	72	100.0



青年集会への参加は何回目ですか?

2. 青年集会への参加は何回目ですか?

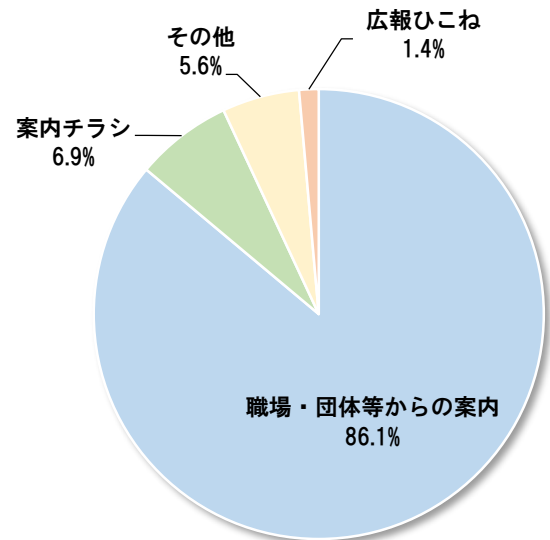
	人数(人)	割合(%)
1回目	48	66.7
2回目	15	20.8
3回目	5	6.9
4回目	2	2.8
5回目以上	2	2.8
無回答	0	0.0
合 計	72	100.0



青年集会の開催をどのように知りましたか？

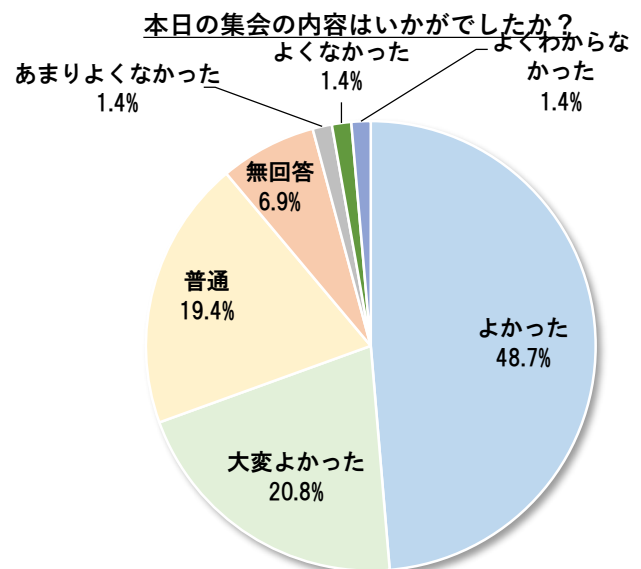
3. 青年集会の開催をどのように知りましたか？

	人数 (人)	割合 (%)
案内チラシ	5	6.9
広報ひこね	1	1.4
彦根市ホームページ	0	0.0
職場・団体等からの案内	62	86.1
その他	4	5.6
無回答	0	0.0
合 計	72	100.0



4. 本日の集会の内容はいかがでしたか？

	人数 (人)	割合 (%)
大変よかった	15	20.8
よかった	35	48.7
普通	14	19.4
あまりよくなかった	1	1.4
よくなかった	1	1.4
よくわからなかった	1	1.4
無回答	5	6.9
合 計	72	100.0



5. 参加者からの感想（一部抜粋）

- 「うわさを信じてしまう」というテーマで、私は子どもの頃のことについてまず、一番に思い出しましたが、口コミの話など以外と今現在もしてしまっていると気付かせられるきっかけをもらえたなと思いました。
グループでは、日本人の特性として多数派の意見を聞くことで安心する、楽に感じるからということがうわさを信じる理由になっているという話が出て、ある程度信じてしまうのも仕方ない部分もあるなと思いました。その中で、自分がしっかり人権意識や情報リテラシーをもって受けとることが大切だということに気がきました。
- パネルディスカッションとグループ討議のときの話題で、「口コミやうわさを信じる」ということです。
口コミやうわさには、真実が多くありますが、間違った情報があるので、そこを見分けることが大切だと思いました。見分ける力は社会経験やニュースを見るといった、自分で情報を知る努力が大切だと思いました。
グループディスカッション内容がやや難しかったと思う。各グループでの発表は手を挙げる人が少なくなった原因だと思います。
- 話し合いにくいテーマだと感じた（自身を振り返りにくい）が、皆さんの具体例を聞くなかでイメージをふくらませることができた。
- 自分自身口こみやうわさにまどわされること自体が少なく、自分の目で、耳で確かめて自分が感じたことを信じるタイプなので、口こみは特に大事に意見として、参考にされている人がいるということにびっくりしました。口こみを見ない自分だから損をしていることもあるかもしれないけれど、見ないからこそ得しているかもしれないし、大勢多数の人の感覚が自分の感覚と一緒だとは思っていません。

●「うわさ」や「口こみ」について、自分自身の事を振り返るきっかけになりました。そして、安易に信じていたりする自分にも気づきました。そういう意味で今回のテーマは強く心に響いた部分です。

たまたま同じグループの方が教育職の他校種の方で、日頃向きあっている子どもたちの年齢によるかかわり方のちがいなどを知ることができてよい時間となりました。

●たくさんのお話を聞かせていただく中で、自分自身、口コミや評価をたよりにしてしまっていたり、小さい頃からのイメージがあり、それが差別的な見方につながっていたりすることに改めて気付きました。グループ討議をする中で、口コミや評価を信じるのではなく、情報の一つとして捉え、全体として判断していくことが大切だということ、自分のもっているイメージを変えていくことは少しずつしかできないけれど、正しい行動をしていくことが大切だということを考えました。

●うわさを信じてしまうこと、たくさんあるなと改めて思った。SNSをよく見るので、注目されている投こうのことにすぐに信じてしまっている。芸能人のニュースも、写真や音声がのっていればさも真実かのように思ってしまう。グループでもSNSの話をしていて、何が本当か見極める力が必要だと感じた。それを子どもたちにも伝えていきたい。パネラーの方のお話の中で、“自分で見たこと、自分が感じたことを大事に”という言葉が印象に残った。人からの根拠のない情報はうのみにせず、自分の感覚を大切にしたい。

●グループ討議での話が印象に残った。保育士、小学校教諭、高校教諭、保護者の様々な立場からの意見が聞けて面白かった。小さい頃からスマホをもたせていたり、ネット上の情報をすぐに信じたりしている子も多いと話の中で分かった。子どもの頃から情報の見極め方を知っておく必要があると感じた。また、教育する側として、子どもに正しい情報の見極め方を伝えていかないといけないと思った。